

ムベキ新政権 陣容と課題(特集 2南アフリカ総選挙)

著者	平野 克己
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アフリカレポート
発行年	1999-09
出版者	日本貿易振興会アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00008375

ムベキ新政権

陣容と課題

平野克己

牧野報告にあるとおり、本年6月総選挙の結果を受けて南アフリカにムベキ新政権が発足した。組閣の陣容は表のとおりである。

1 新内閣の特徴

大蔵、通産、労働等経済関係閣僚は揃って留任した。経済政策方針に変更はないという意志表示である。

女性閣僚が8名にのぼる。アフリカ民族会議(ANC)候補者リストをみると、彼女たちの順位は1994年選挙時に比べて大幅に引き上げられている。ANCは前回選挙で総候補者のおよそ3分の1を女性にし、国会における女性代表率を26.5%まで向上させたが、今回はリスト高位に女性を配して組閣に反映させた。マチェペーカサプリー郵政相は、フリーステート州知事や南アフリカ放送公社(SABC)理事長を務めた、南アフリカにおける黒人女性エグゼクティブの代表格である。

インカタ自由党(IFP)との連立が維持され、同

党が議席数を減らしているにもかかわらずマンデラ内閣と同様の3ポスト(内務、芸術・文化・科学・技術、刑務所)が宛われた。非人種主義(non-racialism)を国是とする南アフリカにおいて民族的出自を云々するのは適切さを欠く恐れがあるが、IFPを含めズルー人閣僚が9名いる。ズマ副大統領をはじめとしてANC側IFP側とも両党間交渉に従事してきた人物が多く、連立政権の繋ぎは強固である。一方、白人2名、カラード2名、インド系4名という布陣で、彼らはいずれも実力派といつてよい。

新たに情報大臣職が設けられ、ANC情報局長であったンランラが就いた。彼は1995年に情報担当副大臣に任命されて情報関連各局を統括し、マンデラ大統領府との連絡にあたってきたが、今回の組閣で閣議メンバーとなった。彼の他にもANC防諜局長であったズマ副大統領や同軍事情報局長であったカスリルス水問題相など、これまで機密情報に携わってきた人材がムベキの脇を固めている。

ムベキ副大統領府付副大臣や統計局担当副大臣

ムベキ新内閣

		所 属	性別	年齢
大統領	T・M・ムベギ(Mbeki)	ANC	男	57
副大統領	J・ズマ(Zuma)	ANC	男	57
大統領府	E・G・パハド(Pahad)	ANC/SACP	男	60
農業・土地問題	A・T・ディディザ(Didiza)	ANC/SACC	女	34
芸術・文化・科学・技術	B・S・ングバネ(Ngubane)	IFP	男	57
刑務所	B・M・スコサナ(Skosana)	IFP	男	52
国防	M・G・P・レコタ(Lekota)	ANC/IFUDF	男	50
教育	K・アスマル(Asmal)	ANC	男	64
環境問題・観光	M・V・ムーサ(Moosa)	ANC/SACP/IFUDF	男	42
大蔵	T・A・マニュエル(Manuel)	ANC/SACP/IFUDF	男	43
外務	N・C・ズマ(Zuma)	ANC	女	50
保健	M・E・チャバララムシマング(Tshabalala-Msimang)	ANC	女	58
内務	M・G・ブテレジ(Buthelezi)	IFP	男	70
住宅	S・D・ムテンビーマハニエレ(Mthembi-Mahanyele)	ANC	女	48
情報	J・M・ンランラ(Nhlanhla)	ANC	男	62
法務	P・M・マドゥナ(Maduna)	ANC/SACP	男	46
労働	M・M・ムドラドラナ(Mdladlana)	ANC/SACP/Sadtu	男	47
鉱物・エネルギー問題	P・ムランボーンガカ(Mlambo-Ngcuka)	ANC	女	44
郵便・通信・放送	I・マチェペーカサプリ(Matsepe-Casaburri)	ANC	女	61
州・憲法問題	F・S・ムファミディ(Mufamadi)	NC/SACP/Cosatu/IFUDF	男	40
公企業	J・T・ラデベ(Radebe)	ANC/SACP	男	46
公共サービス・行政	G・J・フレイザー-モレケティ(Fraser-Moleketi)	ANC/SACP	女	38
公共事業	S・シカウ(Sigcau)	ANC	女	62
安全・治安	S・V・チウェテ(Tshwete)	ANC/SACP/IFUDF	男	60
スポーツ・娯楽	N・バルフォア(Balfour)	ANC/IFUDF	男	44
通商・産業	A・アーウィン(Erwin)	ANC/SACP/Cosatu	男	51
運輸	A・M・オマル(Omar)	ANC/SACP/IFUDF	男	65
水問題・森林	R・カスリルス(Kasriils)	ANC/SACP	男	60
福祉・人口問題	Z・S・T・スクウェイヤ(Skweyiya)	ANC	男	57

(注) ANC: アフリカ民族会議, SACP: 南アフリカ共産党, SACC: 南アフリカ教会協議会, IFP: インカタ自由党, UDF: 統一民主戦線, Sadtu: 南アフリカ民主教員組合, Cosatu: 南アフリカ労働組合会議。

(出所) <http://www.policy.org.za/people/NCABINET/>, その他。

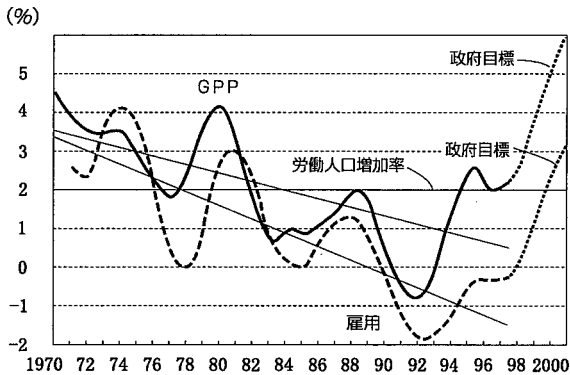
を務めていたパハドが、大統領府付大臣として閣議入りしたことに注目したい。歴史学博士(サセックス大学)で南アフリカ共産党の重鎮でもある彼の職責はいまだ明らかでないが、官房長官的役割を果たすようであれば、副大統領に並ぶ内閣の重要メンバーとなろう。国民統合の象徴としてカリスマ的性格が濃厚であったマンデラ大統領の時代と、政策志向型で実権大統領色の強いムベキ時代の違いを、身をもって体現する存在となるかも知れない。ちなみに彼の弟アジズ・パハドは、ANC

政権発足以来外務副大臣の職にある。

2 新政権の課題

新大統領はソウェト蜂起記念日に行なった就任演説において、貧困、失業、HIV/AIDS、暴力、社会的不平等、汚職といった社会的病弊に立ち向かい、アフリカ全体の再生を目指すことを宣言した。国会開催演説やOAUアルジェ総会等においては、幾つか興味深い政策構想を示唆している。組織犯

GDPと雇用の成長率循環、および各々の傾向線



(出所) 南アフリカ統計局発表のデータに基づき筆者作成。

罪防止法の改正や「開かれた民主主義」法の制定、政府投資比率の引き上げ、国家開発庁の創設、金市況対策、ニエレレ、マシレ、マンデラといった元指導者たちとの協同、インガ水力発電所(コンゴ民主共和国)の拡充、ポスト・ロメ協定交渉、世銀・IMFの再編成などである。

しかし、ムベキ政権に託された最大の課題は、選挙戦の焦点がそうであったように治安の改善と失業対策であり、ムベキ自身が語っているように両者は深く相関している。4000万国民に生活の糧を提供できなければ社会的安定は蝕まれて、南アフリカ民主主義は存亡の危機に立たされるだろう。

南アフリカの失業問題が深刻なのは失業率の異常な高さばかりではない。図は、GDPと非農業雇用の時系列データから短期変動を除去して中期的成長率循環を示したものである。南アフリカの労働人口増加率はおよそ2%であり、傾向線におい

て雇用は経済成長率を大きく下回っている。この図から、1980年代以降雇用の伸びが労働人口の伸びに追いつけなくなり、90年代に入ってから総雇用自体が縮小しているという震撼すべき状況が見て取れる。つまり、失業は南アフリカ経済の体質に起因する構造的病いなのである。現下の経済政策大綱である「成長・雇用・再分配—マクロ経済戦略」(GEAR)は、主に市場活性化を通じて2000年までに6%成長を達成し、もって年間40万の雇用創造を図るとしているが、雇用なき成長パターンを辿る経済体質の改善なくして失業率低下の見込みは立ち難い。

病巣が構造的で、歴史的ですらある以上、市場主義政策では解決が望めない。南アフリカ経済を構造的に変革していく努力が必要で、かくあるべきビジョンを描いてその実現を志す一連の意図的政策が展開されなければならず、その意味で産業政策が求められているというのが筆者の見解である。詳しくは拙稿「南アフリカにおける大量失業問題の産業構造論的分析」(平野編『新生国家南アフリカの衝撃』アジア経済研究所 1999年)を参照いただければ幸いである。

ムベキ政権には、南アフリカ民主主義を支えていく社会規範の確立と経済的安定という国内課題に加え、アフリカ世界に新秩序を構築してアフリカン・ルネサンスを実現するという外交的“野心”がある。「すべての権限を掌握した」(国会演説)新大統領の手腕を国際社会が注視している。

(ひらの・かつみ/地域研究第2部主任研究員)